

かりやすか 荻安賀殿と妙西尼

宮下良明

(会員 佐伯市古江)

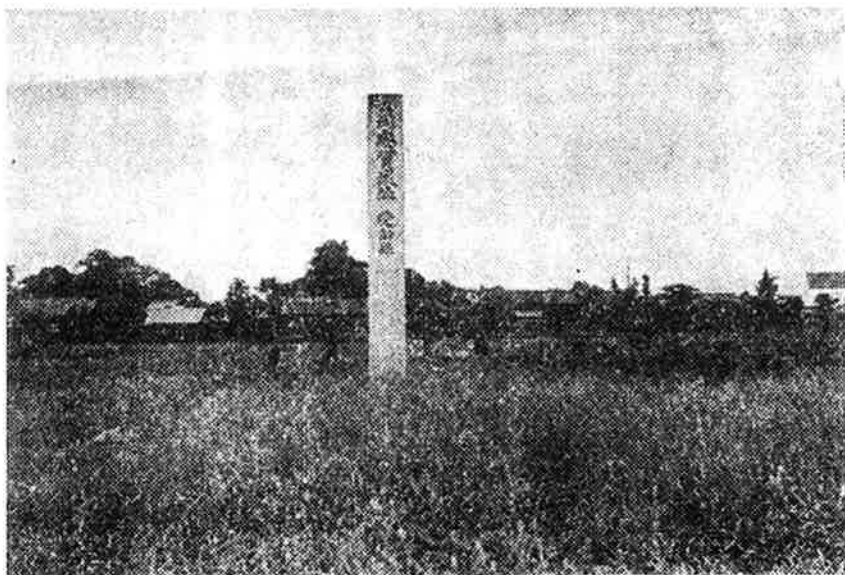
最初に荻安賀殿とは一体どの様な人物であろうか、あらましを説明しておきたい。「尾張國中島郡荻安賀村花井方」は現在の愛知県一宮市で、木曾川を挟み岐阜県との境に広がる地方が荻安賀殿の里に当り、佐伯藩祖毛利高政公は此の地の出身である。

中世の末期、織田・豊臣政権下に築かれた荻安賀城に本題の人荻安賀殿が居住、今日その城跡には記念碑が建ち昔が偲ばれている。

次に妙西尼とは藩祖毛利高政の御母堂として知られ余生を佐伯の地で過ごし没した方である。

一、高政の生誕地荻安賀

さて応仁の乱（一四六七）以後、戦国の争乱に明け暮れた尾張・美濃・三河・近江国の武将は、下剋上国取



荻安賀城址（昭和32年撮影）



小牧長久手合戦関係地図

三、徳川家康と刘安賀殿尾張志に載る毛利関係第二文

田宮丸の母は毛利伊勢守の女なれば徳川神君、敵におはれま至り、（公孫）の御時此地を彼母に賜ひて居住せしめたが郷民尊敬して刘安賀殿と呼びなした。其宅趾に居る淺井左衛門と云ふもの其裔であるが、今も其子孫連續として此所に住んで居る。マ

内容を改めて想うと過去に於いて家康と森伊勢守との何らかの接点が既にあつたようである。

それは去る永祿三年（一五六〇）に起きた桶狭間の戦いが指摘される。織田信長は今川義元の大軍を奇襲し大勝した。当時家康は今川氏に人質の身であつたが、この戦いで解放され三河国領主に復帰し、後に信長と家康は盟約を結んだ。

戦勝の中心的役割を果たした毛利一族と家康の接点は、この時点から既にあつたと考えられる。

四、受領名、「伊勢守」

「尾張塘叢」第五巻の記載

前記尾張推記河内守秀政妹、新に内室又曰毛利伊勢守武揚ノ女也是似以前河内守秀政没勤ハ了了政上守府石毛利伊勢守属織田信長其子河内守秀政仕太閤秀吉也云々是據推記耳

